

平成17年3月

審議のまとめ

国語力向上に向けて



河内長野市国語力向上委員会

国語力向上に向けて

目 次

1 ; はじめに	1
2 ; 国語力向上の意義	2
3 ; 国語力について	2
《「国語力」の構造イメージ図》	3
4 ; 国語力の育成によって期待できる効果	4
5 ; 国語力向上に向けて	5
6 ; 確かな国語力を育成する具体的な方策	
方策 1 ; 【教科国語の授業の中で】	6
方策 2 ; 【教科国語以外の授業の中で】	6
方策 3 ; 【学校図書館教育の中で】	7
方策 4 ; 【学校、学年、学級活動の中で】	7
方策 5 ; 【市内全域で】	8
7 ; おわりに	8
(参考資料)	
河内長野市国語力向上委員名簿	9
No.1『確かな学び』育成施策体系	10
No.2『豊かな心』育成施策体系	11
審議のまとめ＜概要版＞	12

河内長野市国語力向上委員会の審議のまとめ

1；はじめに

今、教育界は、めまぐるしい社会の変化の中で、教育が目指す方向性も微妙に揺れ動き、加えて、地方分権の潮流の中で、各自治体や各学校の自主性・自律性が強く求められています。

こうした中、様々な提言や答申が出され、新たな改革が現実の姿として私たちの前に現れ始めています。中でも、教育の抱える諸課題をシステムの問題としてとらえ、例えば、教育基本法の改正をはじめ、学校運営協議会の設置、特別支援教育への移行、校区の選択化や国庫負担金の権限委譲など、中・長期的な視野に立って、我が国の教育を根幹から改変する動きも加速化されています。

しかし、出来上がった道路を掘り起こして再舗装するように、制度やシステムを変えれば現在の教育課題がすべて解決されるというものではないといえます。そして、この改革の大きな渦の中で、学校現場は、二十世紀の教育と二十一世紀の教育とのジレンマ、トリレンマに苛まれながら、ややもすれば、変化への息苦しさや閉塞感が充満しかねない状況も伺われるところです。

日々、直接児童・生徒と共に歩む学校現場にとって重要なことは、国全体で進められている教育改革の流れに、単に歩調をあわせることなく、目の前の児童・生徒の実態や地域の実情を的確に評価し、これまで積み上げてきた教育の土俵に立ちながら、課題解決につながる新たな実践を発信していくことであるといえます。

つまり、「学校を良くする主人公は、子どもであり、教職員であり、保護者や地域住民である」という学校教育の原点に常に立ち、外からの改革ではなく、内からほとぼしる児童・生徒への教育愛に立脚した取組を進めることが、現在の変化の時代に、学校が生き抜いていく重要な姿勢といえます。

本委員会は、こうした立場に立ち、現在の様々な教育課題を解決するための有効な手立てが、「確かな国語力の育成」にあると考え、平成15・16年度の2年間にわたり、国や他府県の動向も踏まえながら、国語力向上のあり方について審議を重ね、ここに、そのまとめを提言致します。

児童・生徒の教育に携わる関係者のすべてが、「国語力」の重要性を認識し、それぞれの立場で、特色ある実践を積み上げることにより、将来の河内長野市を担うにふさわしい、個性豊かな人間性を内包した人材が育つことを大いに期待をするものです。

2；国語力向上の意義

今、児童・生徒を取り巻く急激な環境変化の中で、不登校やいじめ、学級崩壊、退廃的な生活態度など、さまざまな深刻な問題に共通して見られることの一つは、児童・生徒の多くが、夢や目標を持ちにくく、その一方で、規範意識や自律心の低下、コミュニケーション不全に陥っているということです。この背景には（根本的には文化・社会に関わる問題が大きいのだが）、豊かな人間関係を築くための多様な体験の場と機会が、学校も含め、家庭や地域社会から姿を消したことがその一因と考えられます。

児童・生徒が生き抜く21世紀の成熟した社会を考えた場合、単に、断片的な知識を多く獲得させるのではなく、物事を的確に判断できるような鋭敏な分析力や論理的な思考力、さらには、的確な判断力や創造力などを身に付けさせることが、これまで以上に大切といえます。また、それ以上に、先人たちが築き上げてきた伝統的な文化を肌で感じ取らせ、豊かな感性や情緒を備えた、幅の広い教養と感性を持たせることが極めて重要であるといえます。

特に、義務教育の段階では、一人一人の個性に応じて、基礎的・基本的な知識・技能を身につけると同時に、確かな学力の基盤となる「学ぶ意欲」や「思考力」「創造力」「表現力」をしっかりと身につけることが必要といえます。そして、これらの能力は、多くの体験を通すことにより、より深く豊かな情緒として児童・生徒の心の中に刻み込まれ、次代を担う個性豊かな人材を育てることにつながるといえます。

今後の学校教育で求められる力を生み出す源泉が「国語力」にあるといえます。

そして、これは、河内長野市教育委員会が目指している教育目標である「学ぶ喜びと明日への希望を持った、健やかで心豊かな児童・生徒の育成（河内長野市の教育の重点より）」に寄与するものであります。

「国語力」は、「確かな学力の向上」と「豊かな心の育成」の両観点での、多くの取組の基盤に位置付くものであり、その育成は、教育活動全体に大きく波及し、ひいては、学校文化の基盤をなすと期待されるものです。

＜別紙；No.1『確かな学び』育成施策体系・NO.2『豊かな心』育成施策体系参照＞

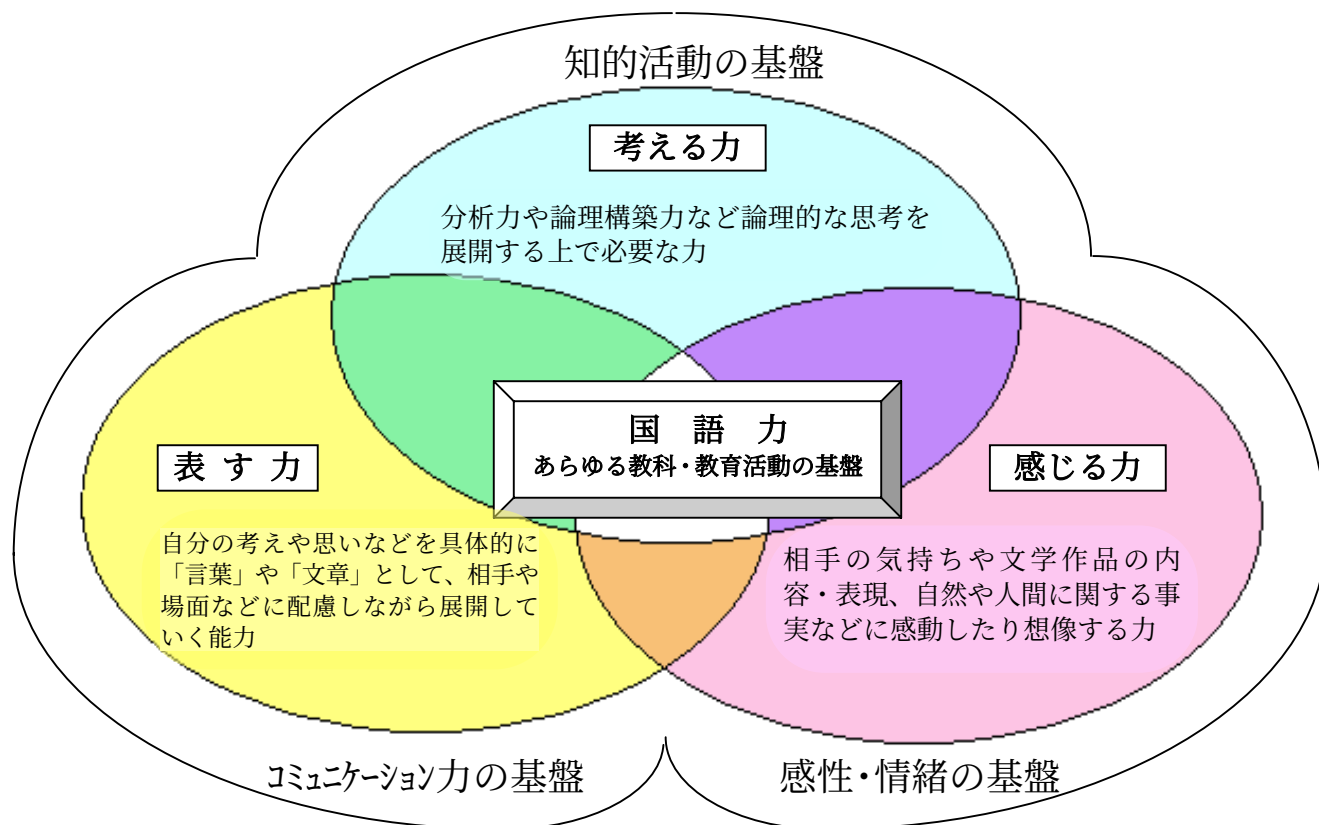
3；国語力について

私たちは、「国語力」を文化の基盤と考えています。この力は、人々の様々な能力や感性、知識・教養などと大きく関わるものなのです。

これまで、学校教育の中では、国語科（書写や読書を含む）を中心に「聞く・話す・読む・書く」の各領域で指導がなされてきました。しかし、あらゆる教科や教育活動の基盤としての「国語力」に関しては、その重要性は認めつつも、あらためて焦点化して取り組みを進めてきたとは言い難いといえます。

本委員会は、教科「国語」の指導という狭義な捉え方ではなく、「確かな学力の向上」「豊かな心の育成」の両観点の基盤として、「国語力」を次のようにイメージ化しています。

《「国語力」の構造イメージ図》



1) 考える力

分析力や論理構築力など、論理的な思考を展開する上で必要な力です。

特に、情報化社会の進展の中で、氾濫した情報の中に含まれている「事実」や「根拠のない情報」などを正確に見極め、内在する論理や構造を的確に捉えていく分析力を含め、21世紀の社会での重要な能力といえます。

2) 感じる力

相手の気持ちや文学作品の内容・表現、自然や人間に関する事実などに感動したり、さらに、相手の表情や態度から、言葉には表れていない言外の思いを察する力、経験のない事柄や現実には存在しない事柄などを自由に思い描く力です。

3) 表す力

自分の考えや思いなどを具体的に「言葉」や「文章」などで、対象や場面に配慮しながら伝えていくための、豊かで美しい言葉を使った表現力です。

しかし、自らの思いを他者に伝えるためには、豊かな語彙が必要であり、また、自らの心の中での深い思索と、他者の生き方を認める心があってはじめて、豊かさ、美しさが表現されるものです。

4；国語力の育成によって期待できる効果

1) コミュニケーション力の基盤として

言葉や文字などによって、意志や感情などを伝え合う「コミュニケーション」をうまく成立させるということは、児童・生徒が社会の中で生きていく上で欠くことのできないものです。国語力は、確かな人間関係を築くための重要な役割を担っています。



特に、今、大きな教育課題として浮上している諸々の生徒指導上の問題も、言葉を介しての意志の疎通や、日常的なコミュニケーションが十分に機能していないこともその要因にあり、国語力を培うことが、こうした諸課題を根本的に解決することにつながるものといえます。国語力は、人が人々の中で生きるための重要な資質なのです。

2) 知的活動の基盤として

「読む・書く・話す・聞く」が、全ての教科の学習の基礎にあることは、論をまたないといえます。児童・生徒は、国語によって知識や知恵を獲得し、逆に、知識なくしては、創造性や独自性を求めることは困難といえます。



つまり、国語は、思考そのものと深く関係しているということです。言葉や文字は、表現する道具以上に、私たちは、それらを用いて考えを整理し、思索を深め、思考しているのです。児童・生徒が深く思考するためには、豊かな語彙が不可欠であり、思考そのものが国語力によって支えられているのです。このように児童・生徒が身につけていく語彙は、思考や情緒と深く関わっています。

児童・生徒が自らの頭で考え、他の人との関係を考慮して、自分の思いを言語化して外部に発現していく力は、国際化が進展するこれからの時代にあっては、極めて重要な能力といえます。

3) 感性・情緒の基盤として

育ってきた家庭環境やこれまでに会った先生や友だちの姿、また、読んだ本の内容など、児童・生徒の感性や情緒は、多くの体験を通して育っていきます。その中には、本委員会が特に大切にしたい、以下のような感性や情緒が含まれています。



◎ 他人の喜びや悲しみ・幸福や不幸に対する感受性

自分の喜びや悲しみに対してだけでなく、他人の喜びや幸福、貧困や悲しみ、過酷な生活を描いた文学などを涙と共に味わう経験によって生まれる感性・情緒

◎ なつかしさ

ふるさとを持たない人が多い今の社会で消えかけている、望郷の思いといった感性・情緒

◎ 美しさ

算数や数学における美しさ、調和感、さらに、自然や芸術、美しい詩歌や古典自然を主題にした文学など、美しさへの感受性

◎ 勇気、誠実、倫理観、正義感、忍耐、礼節、名誉、プライド・・・

茶道、華道、書道、能、歌舞伎など、我が国の文化や伝統の中で受け継がれてきた行動価値で、情緒が形になって現れたもの

◎ 家族愛、郷土愛、祖国愛、人類愛

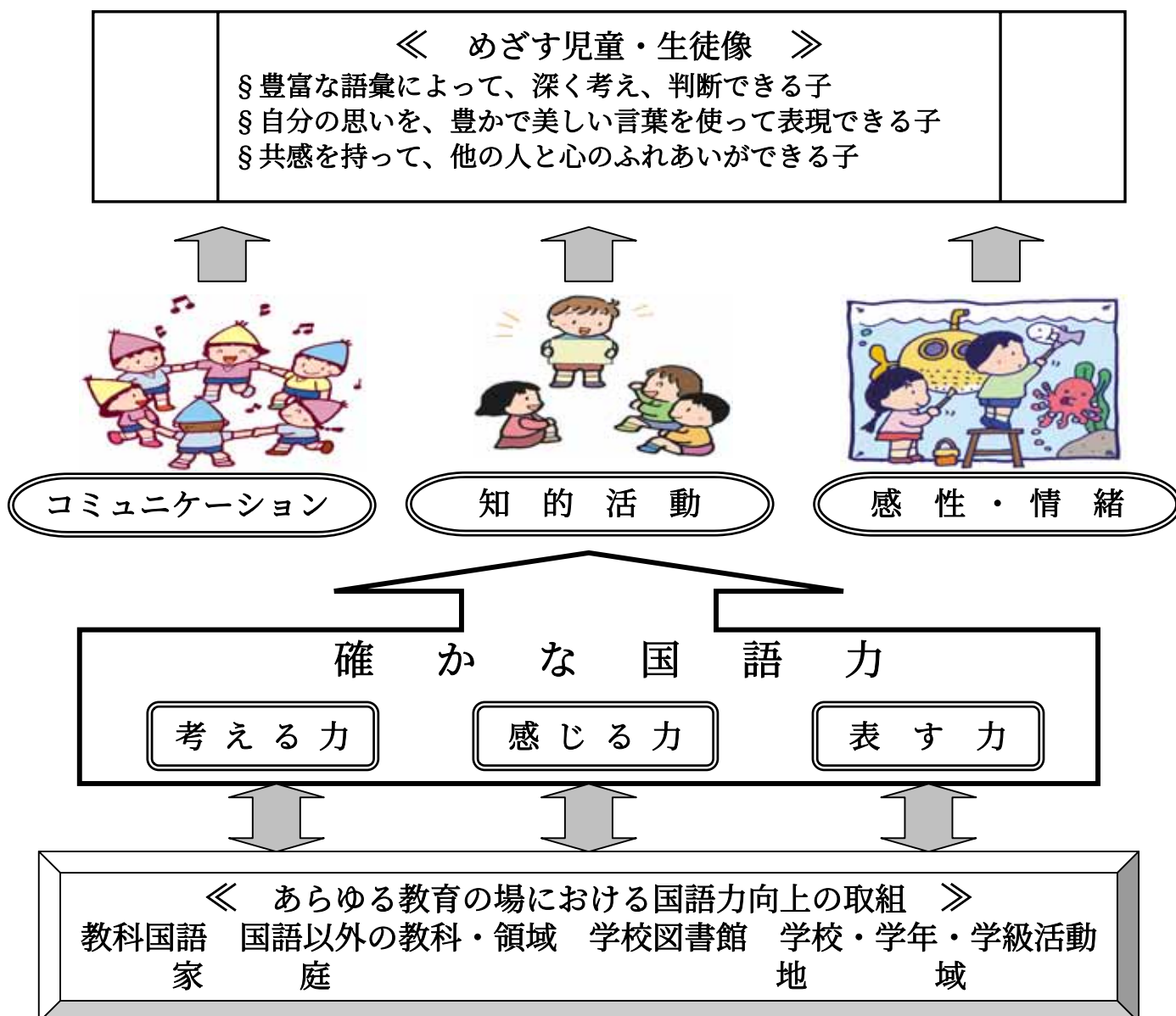
国際社会に生きる上で、その基本として身につけておかねばならない心

こうしたより高度の感性や情緒というものは、国語を通して、美しい日本語の表現やリズム、人々の深い情感、自然への繊細な感受性などに触れることによって、美的な感性や情緒が培われていくといえます。国語の中に、文化、伝統、情緒等の大部分が含まれ、これらは、特に、読書などを通して身につくものといえます。

5；国語力向上に向けて

市教育委員会が平成14・15年度に実施した「学習到達度調査」において、本市の児童・生徒の読解力については、小・中とも、全国平均以上の良好な結果が出ています。しかし、話すことに消極的な態度や書くことへの関心や意欲の低下、情報を収集して書く力の低下など、各領域を細かく見れば、国語力に関わる内容に偏りが見られます。

こうした現状から、国語力の向上に向けては、以下の3点を本市のめざす児童・生徒像として位置づけ、児童・生徒の国語に対する関心や意欲を高め、知的活動をより活発に行わせるための手立てを講じることが重要です。



6；確かな国語力を育成する具体的な方策

教育の役割は、「一人一人が、自分らしく、よりよく人生を生きるための基礎となる教養や感性を身に付けること」にあるといえます。人生にとって重要な価値を、若い世代に伝達することは、理屈抜きに大切であり、特に、私たちは、守るに値する価値や美徳、その尊さというものを、いろいろな形で伝達していく責任があります。

どの時代にも、それぞれの役割があり、その役割を果たすことによって時代は進展するものです。過去の良き教育を精査し、引き継ぐべきは引き継ぎ、さらに、21世紀に求められる生き方を推し量り、そのために必要な手立てを講じることが、私たちに課せられた使命といえます。

児童・生徒の将来を考え、学校、家庭、地域が、これまで述べてきた「国語力」の意義を共有し、さまざまな教育活動の中で実践することは、今の時代、重要なことであるといえます。以下、国語力を高めていくための方策について、活動分野ごとに分け、列記します。

方策1；【教科国語の授業の中で】

- 詩や言葉遊びの音読、役割を決めた群読等、磨かれた言葉への感覚を養い、語彙の質を高める。
- 特に、「読む」・「書く」に重点を置いた指導
- 「書く」ことの日常的取組
- 特に、高学年、中学校において、長文に触れる経験
- 古典や文学作品の紹介
- ドラマを題材にした活動
- 短文カードや読解カード・取材メモなど活用した表現活動



方策2；【教科国語以外の授業の中で】

- 正しく、美しい日本語を使う指導
- 特に、「話す」・「聞く」活動を意識的に組み入れる指導
- ディベート学習やグループ討議の工夫
- 見知らぬ他者に対する発表、スピーチの機会
- レポート作成
- 新聞記事の活用
- 算数や数学、美術、図画工作等の学習内容に出てくる美しさや調和等、美的な感性にも留意した指導



方策3；【学校図書館教育の中で】

- 図書館活用計画を教育計画に位置づけ、学校長と司書教諭、専任司書の連携の上で、学校図書館を教育の中核に据え、図書館活用の教育を全校的に展開
- 「市学校図書館読書活動推進プラン」をもとに、読書環境の整備
- 全教科、全教育活動の一部に図書館活用の計画を組み入れる
- 授業の他、事前学習や事後学習での学校図書館の活用
- 教科国語や社会、理科等で取り上げた同じ著者や同じ題材を、図書館で集め、学年や学級で紹介
- 学校図書館の書籍分類の仕組みや配架
- 図書館ネットワークを活用して、必要な情報をコンピュータで検索
- 読書クイズラリーなどの学校図書館イベントや読み聞かせ、エプロンシアター、図書紹介
- 図書だよりや読書新聞の発行、交流
- 読書活動を促進させるためのコンクール等の工夫
- 児童・生徒の思いを尊重した図書選定
- 休憩時間や長期休業日等を最大限活用した図書館経営
- 保護者や地域住民に開放
- 長期休業日等で、子どもと大人と一緒に読書する機会
- 学校図書館と地域図書館の連携



方策4；【学校、学年、学級活動の中で】

- 朝の10分間読書の実施
- 地域の人々との出逢いや交流を深める場の設定
- 地域の文化や伝統行事や芸能とのふれ合い等、体験学習の場の設定
- 華道、茶道、書道、能、歌舞伎など、伝統的な文化の取り入れ
- カルタ、百人一首など古典詩歌の取り入れとイベント実施
- 「わらべうた」や河内長野の民話の紹介
- 「学校大好きガイドブック（我が校自慢）」「地域の公園大好きガイドブック」「大好き我が街、河内長野」等の製作、交流
- 演劇や、群読、音読、暗誦等の発表会
- 学級文庫の工夫
- 名文暗唱大会や学年劇
- 1分間スピーチ
- いわゆる『いい言葉・美しい言葉』を交わす運動の展開
- あいさつ運動（「おはよう」＋「一言」）
- 「はい」「いいえ」「ありがとう」等、身近な生活用語の徹底
- 「親から子どもへの俳句や短歌」「子どもから親への俳句や短歌」募集
- 姉妹校との交流



方策5；【市内全域で】

- 地域住民や保護者も含めた、国語力向上のための場づくり
- 4月23日「読書の日」の充実
- 国語力の重要性に関する、保護者等巻き込んだ講演会の実施
- 河内長野市教育研究会からの発信
- 家族そろってのファミリー読書の推奨
- 「夕食時のテレビOFF」運動
- 高齢者等との「ふれあい読書」
- 保護者による読み聞かせ
- 「プレゼントに1冊の本」運動
- 通級指導教室や教育相談室等で、言葉についての相談や指導の場づくり
- 国語力向上の意義や、国語力育成のための指導力を高めるための教職員研修
- 市独自の漢字検定
- 演劇や、群読、音読、暗唱等のコンテスト
- 弁論大会やスピーチコンテスト
- 「子どものつぶやきメッセージ」集の発刊
- 「短い手紙」集の発刊
- 「私を支えてくれた一言」集の発刊
- 国語力の向上につながる「河内長野子どもフェスティバル」
- お薦め本の紹介



7；おわりに

昨年度、高校1、2年生を対象にした全国調査がありました。「友だちと電話やメールで話す」と「会って直接話す」ことのどちらがいいかという質問に、9割弱の生徒は、「直接話す」方を選びました。また、「パソコンで書いた手紙」と「手書きの手紙」でも、9割の人が「手書き」を選んでいきます。科学技術の発達によって利便性を重視しがちな風潮の中で、現在の子どもたちは、人との直接的なつながり、心の通い合いを志向しているといえます。

児童・生徒が会う事実の一つひとつが、やがて知識や知恵として芽を吹く種子と考えれば、さまざまな情緒や豊かな感受性は、この種子を育む肥沃な土壌であるといえます。

国語力には、多くの教育課題を解決するだけでなく、人を育てる上で、計り知れない力が秘められているといえます。

果てしなく続く、児童・生徒の「知の旅」において、この提言が真に実効性のあるものとして機能することを心から願っております。

参 考 資 料

河内長野市国語力向上委員名簿

(敬称略)

委員長	宮本 榮信 (教育総合研究所所長)
	善野八千子 (大阪府教育センター企画室主任指導主事)
副委員長	田村 登 (教育相談室長)
	平野 武男 (校長会代表)
	黒田 良子 (教頭会代表)
	柏原 俊彦 (市教育研究会中学校国語部会部長・南花台中学校)
	岡崎 昌美 (市教育研究会小学校図書館部会部長・小山田小学校)
	小寺 康子 (教務主任代表・天野小学校)
	渡部 羊香 (国語科校内研究校代表・高向小学校)
	岡田 達也 (国語科校内研究校代表・南花台中学校)
	石井 知世 (司書教諭代表・南花台東小学校)
	石田 麻江 (図書館司書代表)

(在籍校等は、平成16年度実績による)

<< 『確かな学び』 育成施策体系 >>

<< 笑顔あふれる心の居場所 「ふるさとの学校」 >>
自分らしく、よりよく人生を生きるための教養（生涯学習の観点）

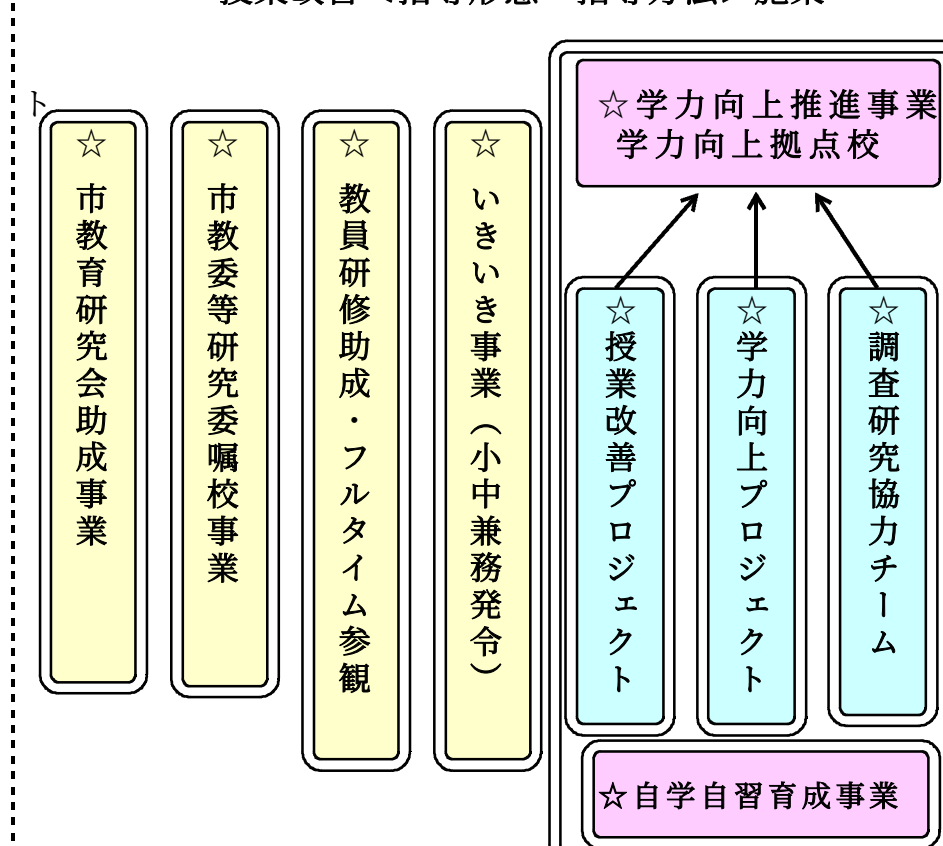
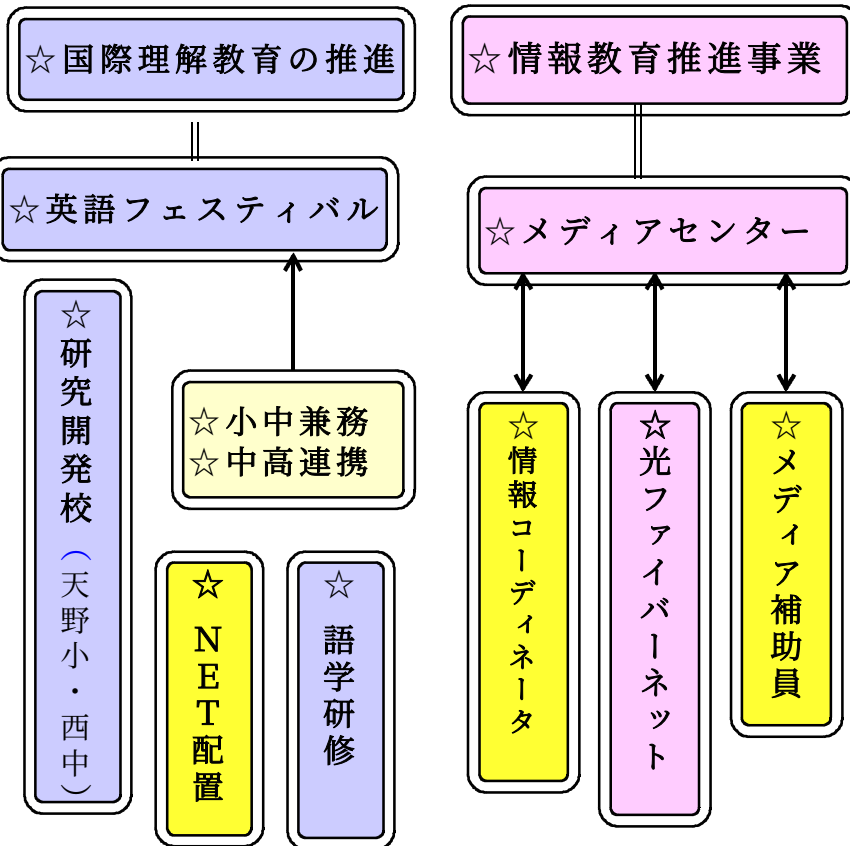
一人ひとりの学びの実現

校内研修の充実・日々の授業の変革

未来への挑戦

個への挑戦

授業改善<指導形態・指導方法>施策



☆ 教育フォーラム

☆ 教職員研修事業
新任研修・10年目研修
課題別・2年目・講師研修等

☆ 大学提携；SSS派遣事業

☆ 地域人材活用事業

☆ハートフルアシスタント

☆スクールアドバイザー

☆市学力実態等調査

☆学校自己診断

☆授業評価

校種間連携事業

☆公立幼・小連絡会
☆校区学校間ネットワーク事業
☆市内公立高・中連絡会

【国語力向上施策】

知的活動の基盤

考える力

感性・情緒の基盤

感じる力

コミュニケーション力の基盤

表す力

読書活動推進事業

読書活動推進プランによる指導

朝の読書タイムの推進

図書ネットワーク構築

☆ 学校司書教諭発令

☆ 学校専任司書配置

学びの花・葉

学びの幹

学びの根

<< 『豊かな心』 育成施策体系 >>

<< 笑顔あふれる心の居場所 「ふるさとの学校」 >>
自分らしく、よりよく人生を生きるための感性（生涯学習の観点）

安全で笑顔あふれる「心の居場所」の構築

生徒指導の充実・日々の学年学級運営の変革

豊かな心への挑戦

☆市人権教育研究会助成事業

☆市人権教育基本方針

☆心の授業・開かれた道德教育推進

☆ふるさと夢事業（郷土歴史学習）

☆「花と緑のやすらぎ活動」事業

☆就学相談委員会

☆児童生徒支援広域連絡会

☆適応指導教室

☆いじめ不登校対策会議

☆SSNセンター事業

☆児童虐待防止連絡会議

☆生徒指導助成事業

☆進路指導助成事業

☆クラブ活動助成事業

☆特別支援教育プロジェクト

☆教職員管外研・企業体験研修

☆市奨学金制度

☆専門医派遣

☆理学療法士

☆看護師・介添員配置

☆ゆーゆースタッフ

☆さわやかフレンド

☆CAP事業

☆市学校危機管理マニュアル

☆シックハウス診断

☆施設内全面禁煙

☆ふれあい合校

☆学習室事業

☆モックル子ども大学

☆学校支援ボランティアバンク

☆学校司書教諭発令

☆学校専任司書配置

【国語力向上施策】

知的活動の基盤

考える力

感性・情緒の基盤

感じる力

コミュニケーション力の基盤

表す力

読書活動推進事業

読書活動推進プランによる指導

朝の読書タイムの推進

図書ネットワーク構築

豊かな心の花・葉

豊かな心の幹

豊かな心の根

平成17年3月

審議のまとめ＜概要版＞

国語力向上に向けて



河内長野市国語力向上委員会

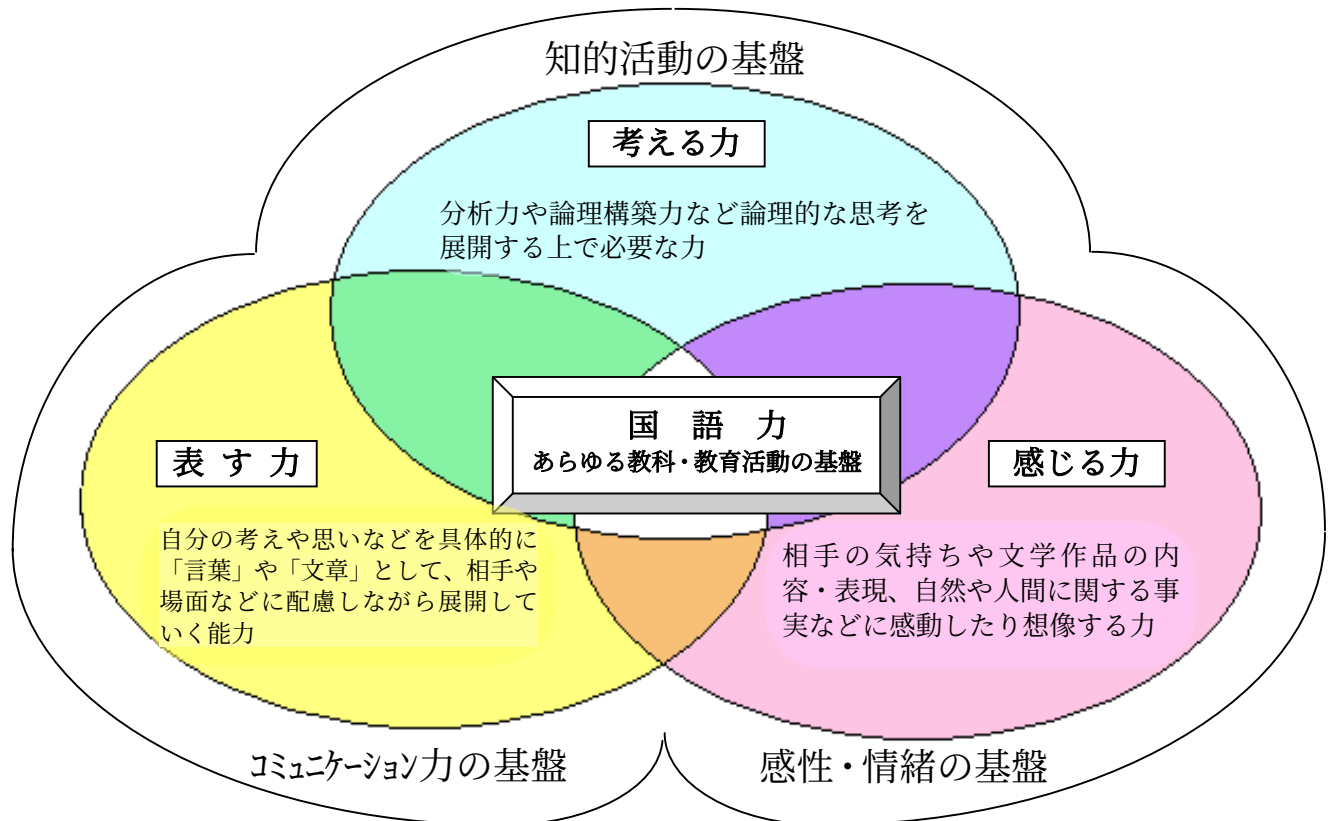
＜豊かな人間性を内包した人材の育成＞

時代を切り拓く確かな国語力の向上にむけて

国語力とは

「確かな学力の向上」と「豊かな心の育成」の基盤であり、
学校文化の基盤となる。

《「国語力」の構造イメージ》



1) 考える力

分析力や論理構築力など、論理的な思考を展開する上で必要な力です。

特に、情報化社会の進展の中で、氾濫した情報の中に含まれている「事実」や「根拠のない情報」などを正確に見極め、内在する論理や構造を的確に捉えていく分析力を含め、21世紀の社会での重要な能力といえます。

2) 感じる力

相手の気持ちや文学作品の内容・表現、自然や人間に関する事実などに感動したり、相手の表情や態度から、言葉には表れていない言外の思いを察する力、経験のない事柄や現実には存在しない事柄などを自由に思い描く力

3) 表す力

豊かな語彙と深い思索、他者の生き方を認める心の上に、自分の考えや思いなどを対象や場面に配慮しながら伝えていくための、豊かで美しい言葉を使った表現力

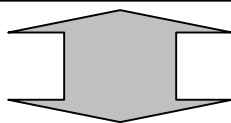
国語力の向上に向けて

河内長野市教育の重点

『思いやりとぬくもりのある、ふるさとの学校づくり』

- ◎児童・生徒に学ぶ喜びと明日への希望を
- ◎教員に教育者としての自覚と高い指導力を
- ◎学校に正しい秩序と活力を

- ◎児童・生徒に健やかな体と豊かな心を
- ◎教員に鋭い人権感覚と実践力を
- ◎学校と家庭、地域の連携を



《 めざす児童・生徒像 》

- § 豊富な語彙によって、深く考え、判断できる子
- § 自分の思いを、豊かで美しい言葉を使って表現できる子
- § 共感を持って、他の人と心のふれあいができる子



コミュニケーション



知的活動



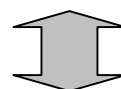
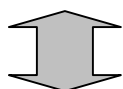
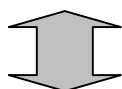
感性・情緒

確かな国語力

考える力

感じる力

表す力



《 あらゆる教育の場における国語力向上の取組 》

教科国語	国語以外の教科・領域	学校図書館	学校・学年・学級活動
家	庭	地	域

国語力によって期待できる効果



効果1；コミュニケーション能力が高まります！

- ★ 言葉を介して日常的なコミュニケーションが深まることによって、さまざまな生徒指導上の課題の解決につながります。
- ★ 言葉や文字などで意志や感情を正しく伝え合うことは、社会の中で生きていく上で欠くことの出来ない力です。
- ★ 国語力は、確かな人間関係を結ぶための重要な基盤となります。

効果2；知的活動の基盤として不可欠です！



- ★ 「読む・書く・話す・聞く」は、全ての教科の学習の基礎です。
- ★ 子どもたちは、言語を用いて考えを整理し、思索を深め、思考します。
- ★ 児童・生徒が深く思考するためには、豊かな語彙が不可欠です。
- ★ 自分の思いを言語化して外部に表していく力は、国際社会の重要な能力です。
- ★ 国語力が、すべての知的活動の基盤であることは、誰もが異論のないことです。

効果3；感性や情緒が豊かに高まります！



- ★ 育ちや多くの出会い、また、読書経験を通して感性や情緒が育ちます。
- ★ これからの時代には、より高い感性や情緒が必要です。
他人の悲しみや不幸に対する感受性、なつかしさ、美しさ、勇気や倫理観、礼節や家族愛、郷土愛 等々
- ★ 高度の感性や情緒は、国語を通して、美しい日本語の表現やリズム、人々の情感、自然への感受性などにふれることによって、培われていきます。
- ★ 国語の中に、文化、伝統、情緒等の大部分が含まれ、これらは、特に、読書などを通して身に付きます。

確かな国語力を育成する 具体的な方策

「市の学習到達度調査」で、読解力は、小中とも全国平均以上の良好な結果が出ていますが、話すことに消極的な態度や書くことへの感心や意欲の低下、情報を収集して書く力の低下など、領域における偏りが見られます。

さまざまな教育活動の中で「国語力」の意義を共有し、実践を行いましょう。

方策1；【教科国語の授業の中で】

- 詩や言葉遊びの音読、役割を決めた群読等、磨かれた言葉への感覚を養い、語彙の質を高める。
- 特に、「読む」・「書く」に重点を置いた指導
- 「書く」ことの日常的取組
- 特に、高学年、中学校において、長文に触れる経験
- 古典や文学作品の紹介
- ドラマを題材にした活動
- 短文カードや読解カード・取材メモなど活用した表現活動



方策2；【教科国語以外の授業の中で】

- 正しく、美しい日本語を使う指導
- 特に、「話す」・「聞く」活動を意識的に組み入れる指導
- ディベート学習やグループ討議の工夫
- 見知らぬ他者に対しての発表、スピーチの機会
- レポート作成
- 新聞記事の活用
- 算数や数学、美術、図画工作等の学習内容に出てくる美しさや調和等、美的な感性にも留意した指導



方策3；【学校図書館教育の中で】

- 図書館活用計画を教育計画に位置づけ、学校長と司書教諭、専任司書の連携の上で、学校図書館を教育の中核に据え、図書館活用の教育を全校的に展開
- 「市学校図書館読書活動推進プラン」をもとに、読書環境の整備
- 全教科、全教育活動の一部に図書館活用の計画を組み入れる
- 授業の他、事前学習や事後学習での学校図書館の活用
- 教科国語や社会、理科等で取り上げた同じ著者や同じ題材を、図書館で集め、学年や学級で紹介
- 学校図書館の書籍分類の仕組みや配架
- 図書館ネットワークを活用して、必要な情報をコンピュータで検索
- 読書クイズラリーなどの学校図書館イベントや読み聞かせ、エプロンシアター、図書紹介
- 図書だよりや読書新聞の発行、交流
- 読書活動を促進させるためのコンクール等の工夫
- 児童・生徒の思いを尊重した図書選定
- 休憩時間や長期休業日等を最大限活用した図書館経営
- 保護者や地域住民に開放
- 長期休業日等で、子どもと大人が一緒に読書する機会
- 学校図書館と地域図書館の連携



方策4；【学校、学年、学級活動の中で】

- 朝の10分間読書の実施
- 地域の人々との出逢いや交流を深める場の設定
- 地域の文化や伝統行事や芸能とのふれ合い等、体験学習の場の設定
- 華道、茶道、書道、能、歌舞伎など、伝統的な文化の取り入れ
- カルタ、百人一首など古典詩歌の取り入れとイベント実施
- 「わらべうた」や河内長野の民話の紹介
- 「学校大好きガイドブック（我が校自慢）」「地域の公園大好きガイドブック」「大好き我が街、河内長野」等の製作、交流
- 演劇や、群読、音読、暗誦等の発表会
- 学級文庫の工夫
- 名文暗唱大会や学年劇
- 1分間スピーチ
- いわゆる『いい言葉・美しい言葉』を交わす運動の展開
- あいさつ運動（「おはよう」＋「一言」）
- 「はい」「いいえ」「ありがとう」等、身近な生活用語の徹底
- 「親から子どもへの俳句や短歌」「子どもから親への俳句や短歌」募集
- 姉妹校との交流



方策5；【市内全域で】

- 地域住民や保護者も含めた、国語力向上のための場づくり
- 4月23日「読書の日」の充実
- 国語力の重要性に関する、保護者等巻き込んだ講演会の実施
- 河内長野市教育研究会からの発信
- 家族そろってのファミリー読書の推奨
- 「夕食時のテレビOFF」運動
- 高齢者等との「ふれあい読書」
- 保護者による読み聞かせ
- 「プレゼントに1冊の本」運動
- 通級指導教室や教育相談室等で、言葉についての相談や指導の場づくり
- 国語力向上の意義や、国語力育成のための指導力を高めるための教職員研修
- 市独自の漢字検定
- 演劇や、群読、音読、暗唱等のコンテスト
- 弁論大会やスピーチコンテスト
- 「子どものつぶやきメッセージ」集の発刊
- 「短い手紙」集の発刊
- 「私を支えてくれた一言」集の発刊
- 国語力の向上につながる「河内長野子どもフェスティバル」
- お薦め本の紹介



教育の役割は、「一人ひとりが、自分らしく、よりよく人生を生きるための基礎となる教養や感性を身に付けること」です。

人生にとって重要な価値を、若い世代に伝達することは、理屈抜きに大切であり、特に、私たちは、守るに値する価値や美徳、その尊さというものを、いろいろな形で伝達していく責任があります。

どの時代にも、それぞれの役割があり、その役割を果たすことによって時代は進展するものです。過去の良き教育を精査し、引き継ぐべきは引き継ぎ、さらに、21世紀に求められる生き方を推し量り、そのために必要な手を今打つことが、私たちに課せられた使命といえます。

国語力には、多くの教育課題を解決するだけでなく、人を育てる上で、計り知れない力が秘められているといえます。

果てしなく続く、子どもたちの「知の旅」において、この提言が真に実効性のあるものとして機能することを心から願っております。